

海洋プラスチック汚染 現場からの報告

③



J E A N 事務局長
小島 あずさ

プラスチックによる海洋汚染問題への注目が高まり、報道も増えてきました。では、周囲を海に囲まれた日本の漂着ごみはどのような状況になっているでしょう。

市街地の散乱ごみの一部は、雨や風に運ばれて川に流れ込み、海まで流れていきます。こうした陸域起因の生活ごみに加えて、海岸の置き捨てごみ、船から出るごみ、逸失漁具や遺棄漁網などの多種多様なごみは、海流と風で移動します。強い海流や、季節風の影響を受ける地域には、たくさんのごみが繰り返し運ば

れてきます。海流や風を受け止める向きに浜が開けていると、運ばれてきたごみが打ちあがって漂着、ごみとなります。海洋ごみの代表的なものが漂着ごみですが、ほ

億トンに上るとのことです。ジョージア大学のIambeckの研究では、生産されたプラスチックがごみになって海に漏れ出す割合は3%とされてお

り、これまでの生産量から推計すると2億5千万トンのプラスチックがごみになって海に流出していることになります。

日本の沿岸を海域別に比べて、日本海と東シナ海の沿岸で、ごみの漂着が顕著であることが分かっています。対馬暖流が流れ込む日本海は閉鎖性が高く、冬季には中国大陸

の生活から出るごみを処理するための規模なので、濡れて塩分が付着し、いろいろな種類のごみが混ざって分別しきれないような大量の漂着ごみの処理は難しく、島外への搬出や、高額の処理費を負担して産廃処理施設で処理しなくてはなりません。場合によっては、海岸を汚していたごみが、山間の埋め立て処分場に移動するだけという状況さえ

日本沿岸の離島に大量の海ごみ

努力重ね立ち向かう地域も

かに海面や海中を漂っている漂着ごみと、海底に沈んだ海底ごみ(または沈積ごみ)があり、広い海全体にいったいどれくらいのごみが存在しているのか、正確なことは分かっていません。

カリフォルニア大学のRolandらの研究によれば、これまでに生産されたプラスチックの量は83

から推計すると2億5千万トンのプラスチックがごみになって海に流出していることになりました。

日本の沿岸を海域別に比べて、日本海と東シナ海の沿岸で、ごみの漂着が顕著であることが分かっています。対馬暖流が流れ込む日本海は閉鎖性が高く、冬季には中国大陸

の生活から出るごみを処理するための規模なので、濡れて塩分が付着し、いろいろな種類のごみが混ざって分別しきれないような大量の漂着ごみの処理は難しく、島外への搬出や、高額の処理費を負担して産廃処理施設で処理しなくてはなりません。場合によっては、海岸を汚していたごみが、山間の埋め立て処分場に移動するだけという状況さえ



長崎県対馬市の海岸のひとつ

から推計すると2億5千万トンのプラスチックがごみになって海に流出していることになりました。

日本の沿岸を海域別に比べて、日本海と東シナ海の沿岸で、ごみの漂着が顕著であることが分かっています。対馬暖流が流れ込む日本海は閉鎖性が高く、冬季には中国大陸

の生活から出るごみを処理するための規模なので、濡れて塩分が付着し、いろいろな種類のごみが混ざって分別しきれないような大量の漂着ごみの処理は難しく、島外への搬出や、高額の処理費を負担して産廃処理施設で処理しなくてはなりません。場合によっては、海岸を汚していたごみが、山間の埋め立て処分場に移動するだけという状況さえ

出た処理を余儀なくされていたが、集めたごみの徹底した分別とリサイクル、木質系の漂着物の脱塩実験などを行ない、今ではすべて島内で処理しています(一部の処理困難物は島内の産廃処分場で埋め立て)。

また、対馬は韓半島から漂流してくるごみが目立つ地域でもありますが、十数年前から韓国の学生たちと市民の交流を兼ねた海岸清掃活動が続けられ、近年は高校生の交流事業も始まりました。海岸清掃活動のコーディネートや、海洋ごみ問題の普及啓発に市役所と協力しながら取り組む中間支援組織も発足し、意欲的に活動を進めています。